

事前質問1

質問	PAH 治療薬として開発されている吸入型 PDGFR 阻害剤のセラルチニブは副作用として咳嗽の報告があるが経口 PDGFR 阻害剤として開発が進められている NS-863 に同様の副作用は認められないか。 その他、副作用は認められないか。
回答	NS-863 の健常成人 P1 試験において咳嗽は認めませんでした。また P1 試験では、特に重篤な有害事象はなく、良好な忍容性を確認しております。

事前質問 2

質問	経口 PDGFR 阻害剤の NS-863 は PAH 治療剤として開発が進められているが抗悪性腫瘍剤として開発する可能性もあるか。
回答	まずは PH 疾患での開発を進め、PH 以外の開発疾患については、臨床試験等からの情報を元に検討していきます。

注：株主総会当日の会場からの質問はありませんでした。